

第12号

ほっとほ〜む

<発行> 社会福祉法人 大阪福祉事業財団 高鷲学園 072 - 953 - 3881 FAX 072 - 953 - 3882
 <発行責任者> 園長 瀬川 佳成 Eメールアドレス takawashi@miracle.ocn.ne.jp
 〒583 - 0885 大阪府羽曳野市南恵我之荘2丁目6番20号

子どもたちの成長を糧に

園長 瀬川 佳成

東日本大震災から一年が過ぎました。たくさんの人の命がうしなわれ、今もたくさんの人たちが避難生活を余儀なくされています。

そんな中で、高鷲学園は、卒業・卒園する子どもたちを送りだして、こうして新しい年度を迎えることができました。今生きていること、命があることの幸せと、普通に生活ができることのありがたみを忘れることなく、子どもたちと一緒にがんばっていききたいと思えます。

さて、3月末で高校・高等部3年生の6人が巣立っていきました。機械製造会社、障害者施設、かまぼこ工場に就職、高等部の子らも福祉施設に入ることができ、みんな今ごろは慣れない仕事や作業に励んでくれていることでしょう。また、親御さんが引き取りを決め、家に帰った子どもが9人もいます。無理せず周りの支援を受けながら、子どもの成長を長く支

えていただくことを願っています。

新年度は82人の児童数でのスタートになりました。だいぶ少ない人数です。昨年9月以降、一時保護児童も含めて百人を超える子どもたちを預かっていました。児童虐待がまだまだ増えている状況ですので、今年も入所児童はだんだんに増えていくと思われれます。

たくさんの子どもの相手の子育ては難しい課題も多々ありますが、職員一同、子どもたちが安心して生活でき、頑張れる環境をしっかりとつくっていききたいと思えます。

皆さま方には、これまで通り高鷲学園の子どもたちを温かく見守って下さればありがたいです。また、後援会等のお願いでついても、ご協力してくださるよう、よろしくお願い致します。



たかわしこどもまつり 開催!!

6月3日(日)に高鷲学園・高鷲保育園にて第48回たかわしこどもまつりを開催します。皆さん、お誘い合わせの上お越しください。

今日の特集

卒園・卒業を祝う会

卒園・卒業おめでとう！
胸を張って羽ばたいて！

まだまだ冬の寒さが残る3月20日春分の日、今年も卒園・卒業を祝う会が行われました。今年の卒業生は幼稚園児5人、小学生9



人、中学生7人、高校生6人の計27人でした。

どの子も新しい進路に向け、悩み葛藤した一年でしたが、それぞれに合った進路選択ができた胸を張って、4月から新しいスタートを切って欲しいと思います。

特に、高校・高等部3年生6人と中学生1人については今まで生活してきた学園を去り、これからは色々なことを自分でやっていかなくてはいいけません。それだけでも不安なのに、進路がなかなか決まらず苦労しました。

高校3年生の子たちは、幼児や小学校低学年の頃に入所した子が多く、抱えている問題の大きさに比例してとも手のかかる子たちでした。その分、不器用なこの子たちのこの子たちらしい「別れの言葉」はそれぞれに感動的で、立派に成長していたんだなと感慨深いものがありました。

また、3部構成で行われた式の



1部では日頃からお世話になってくる幼稚園、小学校、中学校、支援学校の先生方にも出席して頂き、お祝いの言葉をいただけただけのこと、とても感謝しています。

2部では調理職員が腕を振るった豪華な、慣れ親しんだ味の夕食を学園のみんなですろって食べました。

3部の出し物も各ブロックの子どもたちが何日も前から練習した

歌やダンスを披露し、お祝いの気持ちを届けました。

最後のスライドショーでは、卒業生それぞれの小さい頃から今までの軌跡をたどっていききました。懐かしい顔に歓声をあげる職員、恥ずかしさに顔を伏せる卒業生の、いつまでも終わって欲しくないような余韻に浸りながら、今年度の卒園・卒業を祝う会も幕を閉じました。

この会を盛り上げ、拍手で卒業生を送るために何日も前から準備を手伝ってくれたり、アイデアを出してくれた在園児たちにも感謝しています。

そして、学園を巣立っていった子どもたちには、しっかりと地に足をつけ生きていってほしいと願っています。

(1階ブロック 山田千尋)



祝う会の中で子どもたちが読み上げる「送る言葉」と「別れの言葉」はとても感動的です。職員は涙なしでは聞けません。子どもも成長が直に実感できる時間で、「これまでの苦労がやわらぎます。」

卒園生 別れの言葉

私は2歳の時に学園に来ました。まだ2歳だったし来たときのことには全然覚えてないし、なぜ学園にいるのかも考えたりしませんでした。学園の先生や友達と遊ぶのが楽しかった。

幼児の頃の思い出は、嫌いなネギを泣きながら食べた事。節分にオニが来て大泣きした事。台風が来て停電した事です。小学生になつてからは、よく喧嘩をしたのを覚えています。あだ名がついたのもこの頃です。小学生の高学年のとき、キャンプでダンスをしたのがとても楽しかったです。

中学生になり、バレー部に入り新しい友達も出来て毎日楽しかったです。高校に入ってから、新しい友達ができ勝手に学校を休んで友達と遊んだりしてた時期もあったけど、それだけ友達といえるのが楽しかった。



高校くらいから学園の先生に反抗するようになり、何か言われる度に反発するようになりました。帰ってくる時間が遅くなったり、無断で外泊したりしてたくさん迷惑をかけました。とにかく学園が嫌い、なぜ自分がこんなところにいないといけないとだめなのか、いたくっていたいわけじゃないのに、なぜこんなにいるさく言われなやかなのか、学園における時はあまり楽しくなかった。そんなことばかり考えて、学園の先生に生意気

なこと言ったり、傷つけてごめんなさい。自由になりかたつた。友達の話しを聞くといつも羨ましかったです。学園に入れた親を恨んだ。でもそれは、今だから言えることで、学園にいてよかった事もたくさんあった。

いろんな友達に出会えて、いろんなところへ行ったりした。悩む事も多かったけど、その分強くなれた。そして、何よりいろんな先生に出会えた。いろんな先生に支えられて今日まで来れた。ありがとう。

4月から介護の仕事をします。知らないことばかりで大変やし、苦労すると思うけど、あきらめずに頑張っていきたいです。学園が大嫌いだったけど、今となっては学園で過ごした16年間は私の宝物です。お世話になりました。

在園生 送る言葉

クミちゃんは、意思が強く、いつも自分の意見を貫き通してましたね。気が強そうに見えるけど、実は恥ずかしがりやでネガティブな面もありました。小さいころか

らいつも一緒にいたので、そういう面もたくさん知っています。

一緒にグループになった時はよくケンカをして先生を困らせていましたね。思いっきり喧嘩のできる相手がいるのは素晴らしいことだなと思いました。8年も一緒にいたクミちゃんとの別れはとても辛いです。でもこれで本当に会えなくなるわけじゃないし、これからも仲良くさせて欲しいと思います。

これから始まる仕事ではクミちゃんらしく笑顔を絶やさずに頑張ってください。仕事場でもたくさん良い人たちに囲まれてるクミちゃんが想像できます。これから辛いこともあると思いますが、クミちゃんは一人居ないってことを忘れないでください。そういう時はいつでも学園に帰ってきてください。学園はクミちゃんの家です。

また、昔のようにバカな話をして盛り上がりましょう。最後に、好きなものも趣味も全然違うけど嬉しいことや悲しいことを一緒に共感してくれたクミちゃんが大好きです。

寄付金・寄贈をいただいた方

(2011年12月27日~2012年3月28日)

ありがとうございます。

(敬称略)

寄付金

N・M(大阪市) M・S(羽曳野市)

羽曳野遊技業組合

羽曳野市更生保護女性会 田中農園

寄贈

F・T(お餅) I・R(お餅)

ミキシングイノベーション(野菜)

天地会吉田義男(カレーパック)

羽曳野市更生保護女性会(タオル、石けん)

ポランティアSOV(雑巾)

田中農園(ポンカン) 浅田満(巻き寿司)

招待

大阪そねざきロータリークラブ

(キッサニア甲子園)

財団後援会の更新

入会のお願い

会員の皆さん、いつも子どもたちにあたたかい御支援をありがとうございます。

皆さんの力で、高鷲学園を支えて下さい。新しく会員となってくださる方を広く募集しております。新年度となり、既に会員の皆さんは更新をよろしく願います。

一口年間3000円です。

新しい仲間が増えました

4月から子どもフロアに6人の新しい職員が仲間入りしました。



四国の香川県出身。お笑いとお食べる事が大好きな新卒22歳です。大阪で生活する事が初めてなので不安も多いですが、春から、高鷲学園で頑張りたいです。(赤根 彩美)



子どもたちが自分のおかれています環境に対して不満や不安を抱くことなく、笑顔で過ごせるように支えていきたいと思えます。(大竹 慎太郎)



子どもとの関わり方は日々手探りな部分もありますが、同じ目線を中心掛け良き相談相手になりたいです。他の職員と連携をとって子どもたちの成長を見守っていきたいと思えます。

(奥村 瑞穂)



長野県出身で、大阪に来たばかりで大阪のことも高鷲学園のことも分らないことはかりですが、一杯頑張ります。(篠崎 亮)



4月から高鷲学園で保育士として勤める事になりました。養護施設や子どもたちのことは分らないことがありますが、一生懸命頑張りたいと思っています。(橋本 渚)



はじめまして。四月から高鷲学園で働かせて頂きます。一生懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。(村瀬 愛)

ほっとひとこと

20日の「祝う会」で、卒業した子たちのお祝いをしました。子どもたちの送辞を聞いて、みんな大きくなったなあと感無量の思いでした。私たちのしごとは目に見えるものではありませんが、子どもたちが成長していく中で心の支えとなれるよう頑張りたいです。(永田 和子)